かたちのないもの

沖縄県　昭和薬科大学附属中学校　三年　波上　凪

水は私たちの生活に深く関わっています。すべての人が、毎日水を飲んで、触れて、使っているでしょう。しかし、そのせいで却ってその大切さを忘れてしまうことがあるのではないでしょうか。私自身、そのことを痛感させられる出来事がありました。

去年、私の住む那覇市をはじめとする沖縄県の広範囲で断水が行われました。原因はダムからの導水管の老朽化による破裂だとされています。私は最初、断水のことをよく知らず、何が起こっているのかもわからないほどでした。父母がＳＮＳやテレビで情報収集をしてくれて、ようやく事態の大きさに気づきましたが、何をすれば良いのかわからず、焦りました。

両親に教えてもらい、断水が始まる前に水を大量に汲み置きました。断水の間の家事やトイレに使うための水です。風呂桶一杯に水を溜めたのですが、それだけでは足りないと予想し、家中のタライに水を汲みました。

普段の生活で水のことを意識する事がなかった私にとって、自分がいつもどのくらい水を使っているのか視覚的に表れるというのは衝撃的でした。お風呂に、バケツに、タライに、いっぱいに満たされた、まさしく「大量」というべきこの水がなければ、私の生活は成り立たないのだと気付かされました。

この断水で特に大変だったのは、入浴と排泄です。入浴は水の要求量が多いため、断水が始まる前に済ませておく必要がありました。時間に追われながらの入浴はなかなかに大変でした。排泄、特に断水後は、トイレ用に溜めておいた水があったのですが、量に限りがあったので、排泄の回数も制限されました。水というと、飲むものというイメージがあったのですが、衛生を確保するために使うものとしても大きな役割を果たしているのだと実感しました。

この断水は一日続かずに終わったので、本格的な水不足に苦しむこと無く済みました。しかし、この断水の根本的な原因である水道管の老朽化が完璧に解決された訳ではありません。沖縄タイムスによると、２０２４年度末時点で、沖縄県の水道管５８９キロの内１６パーセントに当たる９４キロが法定耐用年数４０年を超えていたそうです。日本全体に視野を広げれば、厚生労働省によると、年間２万件を超える水道管の漏水・破損事故が発生しているそうです。水道管の多くは高度経済成長期に整備されているとされ、耐用年数を超過する水道管がこれから増えていくと言われます。これから先にも、断水や水道管の故障が起こる可能性はあり続けるでしょう。

もし、断水がもっと長く続いていたのなら、これから水が使えなくなるような事態が起こってしまったのなら、私たちの生活や、産業、福祉は成り立たなくなるのでしょう。

上下水道やダムといったインフラが整備された日本では、安全な水を使えるのは当たり前のこととなっています。しかし、その裏では「当たり前」が脅かされています。インフラ整備の老朽化、災害への対策不足、雨量不足、思い当たることはたくさんあります。災害や天候はいつどこでどのようなことが起こるのかは人間に予想し切れることではないので、何があっても問題がないような状態を事前に作っておくことが大切だと考えます。そのためには、まず、知ることが大事だと思います。現状の、非常事態でのシステムを、今なされているシステムを維持するための対策を、より多くの人が知ることが、いつの日か私たちの生命や生活を維持する助けになるでしょう。私たちをめぐる水のことを知ることで、いつまでも、どこにも水で苦しむ人が生まれないようにしたいと思います。